

二〇一六年五月三十一日
発行



第99巻 第3号 史学・地理学・考古学

論 説

- 嘉靖六年年末の内殿儀礼改定……………岩本真利絵 (1)
——中国明代における専制君主と政策決定の正当性——
- 一九世紀前半のフランス地方都市における
歴史的記念物の保存と都市計画……………中山俊 (32)
——歴史的記憶をめぐる中央と地方の関係について——
- 冷戦初期のアメリカ合衆国の大学における
ソ連研究の諸相……………藤岡真樹 (63)
——ハーヴァード大学難民聞き取り計画と学知の「停滞」——

研究ノート

- 東大寺領越中国新川郡大藪荘・丈部荘をめぐる……………金田章裕 (101)

紹 介

- 帆刈 浩之著『越境する身体の社会史
——華僑ネットワークにおける慈善と医療——』……………小堀慎悟 (120)
- 波田野節子著『李光洙
——韓国近代文学の祖と「親日」の烙印』……………河かおる (121)

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

波書店、二〇一一年)。日本の近代に翻弄された植民地の作家李光洙を「窓」として日本を見つめることを目的と位置づける本書は、その問いを問い続けるためにこそ、多くの人に読まれて欲しい一冊だ。

(新書判 二四八頁 二〇一五年六月)

中央公論新社 税別八二〇円

(河かおる 滋賀県立大学准教授)

『史林』投稿規定

- ◇資格 本会会員であること。
- ◇投稿受付原稿の種類、長さ
論説 1 段組54字×19行の体裁で、三三〇〇〇字以内
- ◇研究ノート 2 段組29字×20行の体裁で、二〇〇〇字以内
- ◇研究動向 2 段組29字×20行の体裁で、三二〇〇〇字以内
- ◇史料紹介 2 段組29字×20行の体裁で、三二〇〇〇字以内
- ◇書評・論文評 2 段組、八〇〇〇字以内
- ◇紹介 3 段組、一二〇〇字程度
- ◇原稿の種類を明示すること。
- ◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの

紙幅に取めること。

◇注は各章末に入れること。

◇「欧文タイトル」を添付すること。

◇論説には「要約」(四〇〇字以内)を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。

◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」(六〇〇

〜八〇〇語程度)を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇投稿に際しては、(1)プリントアウト

一部もしくはPDFファイル、および(2)電子データを送付する。電子データに関する詳細は下記「補足」の「電子データ作成要領」を参照。電子データを準備できない場合は、あらかじめ事務局まで連絡すること。

◇図版を用いる場合は、下記「補足」の「図版作成要領」に従って作成、添付すること。

注意・編集委員会において、印刷技術上、図版の修正や特殊活字の作成を要すると判断し、これを業者に委託した場合には、その経費の一部、数千円〜数万円を負担

していただきます。あらかじめご了解下さい。

送り先・史林編集委員会

〒六六六 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究会

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ添付要領〉

・電子データは、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、USBフラッシュメモリーなどのメディアに保存して郵送することを原則とする。郵送に不便があるなどの事由で、メールによる投稿を希望する場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、太一郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式(OSおよび使用ソフト)を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、300dpi以上の解像度とする。ソフト(IllustratorやPhotoshopなど)やバージョンについて事前に照会・確認をすること。

〔図版作成要領〕

- ・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。
- ・仕上寸法は、最大で170mm×110mm（キャブシヨン込み）とすること。
- ・図および写真は、仕上寸法の2倍（面積4倍）程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。
- ・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。
- ・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。
- ・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会にて調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意・図表に不備がある場合は、投稿者に修正を依頼するか、編集委員会が修正します（経費は投稿者負担となります）。

〔論文等の電子的公開について〕

- ・著者が論文等を任意のサーバーに、機関レポトリ等を使って公表する場合は、以下の条件を満たすことを要する。この条件を満たす限りにおいて、本会への承諾いは不要とする。
- イ 『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。
- ロ 論文の出版を明らかにすること。
- ハ 営利目的でないこと。

（二〇一四年一月改定）

受 贈 誌

（二〇一五年一月二六日）
（二〇一六年五月九日）

- 法学家（中國人民大學）二〇一五―一五
- 社会経済史学（社会経済史学会）八一―一三
- 史迹と美術（史迹美術同致会）八五―九
- 九州国際大学 法学論集（九州国際大学法学会）二一―一・二・三合併号
- 海事史研究（日本海事史学会）七二
- 考古学報（中国社会科学院考古学研究所）二〇一五―四
- 文化史学（文化史学会）七一
- 大美学（大神神社社務所）一三〇
- 神道史研究（神道史学会）六三―一二
- 立命館国際平和ミュージアムだより（立命館国際平和ミュージアム）二三―二二
- 信濃（信濃史学会）六七―二二
- 人文學（同志社大学人文学会）一九六
- 國史學（国史学会）二一七
- 史學雜誌（史學會（東京大学文学部内））二四―一
- 韓国民族文化（釜山大學校韓国民族文化研究所）五七
- 日本史研究（日本史研究会）六四〇

- 龍谷史壇(龍谷大学史学会) 一四一
 茨城大学人文学部紀要社会科学論集(茨城
 大学人文学部) 六〇
 茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケ
 ション学科論集(茨城大学人文学部) 一
 九
 九州国際大学経営経済論集(九州国際大学
 経済学会) 二二一
 東方學會報(東方学会) 一〇九
 アジア研究所報(亜細亜大学アジア研究
 所) 一六一
 立命館法學(立命館大学法学会) 三六一
 経済科学(名古屋大学大学院経済学研究
 科) 六三一
 日本歴史(日本歴史学会) 八二一
 ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The
 Official Journal of THE ANTHROPO-
 LOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一
 一三一一 (Japanese Series)
 ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The
 Official Journal of THE ANTHROPO-
 LOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一
 一三一一
 史迹と美術(史迹美術同友会) 八六〇
 日本民俗学(日本民俗学会) 二八四
- 政治経済史学(日本政治経済史学研究所)
 五七七一五八八
 韓國史研究彙報(韓國国史編纂委員會) 一
 七〇・一七一
 東洋史研究(東洋史研究会) 七四―三
 國家學會雜誌(國家学会事務所) 二二八―
 一一・一二
 人文研究(小樽商科大学) 一三〇
 東方學報(京都大学人文科学研究所) 京都
 九〇
 日本学刊 JAPANESE STUDIES (中国社
 会科学院日本研究所中華日本学会) 二〇
 一五六
 史學研究(廣島史學研究会) 二九〇
 信濃(信濃史学会) 六八一
 人文學報(京都大学人文科学研究所)
 CVIII
 法学家(中國人民大學) 二〇一五―六
 日本史研究(日本史研究会) 六四一
 国史談話会雜誌(東北大学国史談話会) 五
 六
 史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))
 一二四―一二
 国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民
 俗博物館) 一九六
- 国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民
 俗博物館) 一九八
 文化(東北大学文学会) 七九―一・二
 日本歴史(日本歴史学会) 八三三
 法學志林(法政大学法學志林協会) 一一三
 一
 法學志林(法政大学法學志林協会) 一一三
 一
 一
 国立臺灣大學 考古人類學刊(國立臺灣大
 學大学院人類學系) 八三
 中央研究院 歷史語言研究所集刊(中央研
 究院歷史語言研究所) 八六一―四
 桃山歴史・地理(京都教育大学史学会) 五
 一
 東方學(東方學會) 一三一
 九州国際大学教養研究(九州国際大学教養
 学会) 二二―二
 經濟研究(一橋大学經濟研究所) 六七―一
 古代史の研究(関西大学古代史研究会) 一
 九
 史迹と美術(史迹美術同友会) 八六一
 立命館産業社会論集(立命館産業社会学
 会) 五一―三
 東アジア人情報學研究センター 東方學
 資料叢刊 二一

西洋史論叢(早稲田大学西洋史研究会) 三

七

東洋學文献類目(京都大学人文科学研究所

附属漢学情報研究センター) 二〇一三年

度

史學(三田史学会) 八五—四

經濟論究(九州大学大学院經濟学会) 一五

三

国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民

俗博物館) 一九九

Journal of Northeast Asian History

(Northeast Asian History Foundation)

一一—一

The Journal of Territorial and Maritime

Studies (Northeast Asian History

Foundation) 三—一

皇學館大学研究開発推進センター年報(皇

學館大学研究開発推進センター) 二

美術研究(東京文化財研究所) 四—一七

史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))

一一五—一

信濃(信濃史学会) 六八—二

一橋研究(一橋大学大学院一橋研究編集委

員会) 四〇—三(通卷一八—三)

日本史研究(日本史研究会) 六四—二

日本歴史(日本歴史学会) 八—四

Territory and Seas 포토해역연구(동북아

역사재단(東北亞歴史財団)) 一〇

日本学研究(金沢工業大学日本学研究所)

一—八

専修史学(専修大学歴史学会) 五—九

人文地理(人文地理学会) 六七—五

史迹と美術(史迹美術同致会) 八六—二

史泉(関西大学史学・地理学会) 一—三三

中山大学学報 社会科学版(中山大学学報

編集部) 五五—四

中山大学学報 社会科学版(中山大学学報

編集部) 五五—一五

中山大学学報 社会科学版(中山大学学報

編集部) 五五—一六

国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民

俗博物館) 一九—七

帝京史学(帝京大学文学部史学科) 三—一

国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民

俗博物館) 二〇—〇

史遊(京都教育大学歴史・地理学研究会)

二—一

皇學館大学研究開発推進センター紀要(皇

學館大学研究開発推進センター) 二

經濟科学(名古屋大学大学院經濟学研究

科) 六三—三三

鹿児島經濟論叢(鹿児島國際大学經濟学部

学会) 五六—一—四合併号

社会經濟史学(社会經濟史学会) 八一—四

駿台史學(駿台史学会) 一—五六

待兼山論叢 文化動態論篇(大阪大学大

院文学研究科) 四—九

經濟論叢(京都大学經濟学会) 一八八—四

經濟論叢(京都大学經濟学会) 一八九—一

創刊一〇〇年記念號

經濟論叢(京都大学經濟学会) 一八九—二

經濟論叢(京都大学經濟学会) 一八九—三

人文學(同志社大学人文学会) 一九—七

史窓(京都女子大学史学会) 七—三

成大歷史學報(國立成功大學歷史學系) 四

九

関西学院史学(関西学院大学史学会) 四—三

史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))

一一五—二

センター研究年報(京都大学人文科学研

究所所属東アジア人事情報研究センター)

二〇—一五

韓國民族文化(釜山大學校韓國民族文化研

究所) 五—八

日本史研究(日本史研究会) 六四—三

- 法政史論（法政大学大学院日本史学会）四
三
立命館産業社会論集（立命館産業社会学
会）五一—四
信濃（信濃史学会）六八一—三
日本常民文化紀要（成城大学大学院文学研
究科）三一
神道宗教（神道宗教学会）二四〇
神道宗教（神道宗教学会）二四一
皇學館大學紀要（皇學館大學）五四
九州国際大学教養研究（九州国際大学教養
学会）二二—三
社会学年誌（早稲田社会学会）五七
日本歴史（日本歴史学会）八一—五
アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究
所）四二
人文地理（人文地理学会）六七—六
文化學年報（同志社大学文化学会）六五
立命館平和研究—立命館大学国際平和ミ
ュージウム紀要—（立命館国際平和ミ
ュージウム）一七
立命館国際平和ミュージウムだより（立命
館国際平和ミュージウム）二三—三
東洋史研究（東洋史研究会）七四—四
史迹と美術（史迹美術同致会）八六—三
古代文化（古代學協會）六七—四
史観（早稲田大学史学会）一七—四
人文研究（小樽商科大学）一三一
立命館文學（立命館大学人文学会）六四五
新潟県立歴史博物館研究紀要（新潟県立歴
史博物館）一七
新潟県立歴史博物館年報（新潟県立歴史博
物館）一五
美術研究（東京文化財研究所）四一—八
関学西洋史論集（関学西洋史研究会）
XXXX
東京大学東洋文化研究所 活動報告書（東
京大学東洋文化研究所）二〇—二—二〇
一四
東洋文化（東京大学東洋文化研究所）九六
經濟論究（九州大学大学院經濟学会）一五
四
經濟科学（名古屋大学大学院經濟学研究
科）六三—四
立命館法學（立命館大学法学会）三六三—
三六四上
立命館法學（立命館大学法学会）三六三—
三六四下
紀要 史学（中央大学文学部）六一
駁台史學（駁台史学会）一五七
日本研究 国際日本文化研究センター紀要
（国際日本文化研究センター）五二
愛知大學文學論叢（愛知大学文学会）一五
三
考古學報（中国社会科学院考古学研究所）二
一六一—
史學研究（廣島史學研究会）二九—
大倉山論集（大倉精神文化研究所）六二
史學雜誌（史學會（東京大学文学部内）
一二—五—三
東洋大学文学部紀要（東洋大学）六九史料
科篇四—
アジア文化研究所研究年報（東洋大学アジ
ア文化研究所）五〇
アジア文化研究所研究年報（東洋大学アジ
ア文化研究所）一—三六—三七—五〇号
総目次
藝林（藝林會）六五—一
日本学刊 JAPANESE STUDIES（中国社
会科学院日本研究所中華日本学会）二〇
一六一
法学家（中國人民大學）二〇—六一—
飛鳥資料館研究図録（奈良文化財研究所飛
鳥資料館）一九
古代東ユーラシア研究センター年報（専修

- 大学社会知性開発研究センター) 二
 一橋研究(一橋大学大学院一橋研究編集委員会) 四〇―四(通巻一八四)
 福島県立博物館紀要(福島県立博物館) 三〇
 信濃(信濃史学会) 六八―四
 日本民俗学(日本民俗学会) 二八五
 同朋大学佛教文化研究所紀要(同朋大学仏教文化研究所) 三五
 同朋大学佛教文化研究所報(編者) 二九
 大東文化大学漢學會誌(大東文化大學漢學會) 五五
 經濟學研究(九州大学經濟学会) 八二―四
 經濟學研究(九州大学經濟学会) 八二―五・六合併号
 日本史研究(日本史研究会) 六四四
 松本市史研究(松本市) 二六
 奈良史学(奈良大学史学会) 三三
 日本歴史(日本歴史学会) 八一六
 学習院大学東洋文化研究所 調査研究報告(学習院大学東洋文化研究所) 六〇
 民俗学研究所紀要(成城大学民俗学研究) 四〇
 東洋文化研究(学習院大学東洋文化研究所) 一八

- 龍谷大学經濟学論集(龍谷大学經濟学会) 五五―一・二
 國史學(國史学会) 二一八
 同朋大學論叢(同朋夕大学同朋学会) 一〇
 ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of THE ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一四―一
 栃木県立文書館研究紀要(栃木県立文書館) 二〇
 栃木県立文書館だより(栃木県立文書館) 五八
 山口大學文學會志(山口大学文学会) 六六
 經濟研究(一橋大学經濟研究所) 六七―二
 アジア研究所所報(亜細亜大学アジア研究所) 一六一
 神道史研究(神道史学会) 六四―一
 国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民俗博物館) 二〇―一
 編集後記
 桜前線の北上に心躍らせたのも今は昔、京都にはまた別の前線が迫って参りました。こちらの到来には、まったく心が躍りませ

ん。さらに後には、暑い暑い京都の夏が控えております。その訪れに、今から恐れおのいております。

史林九九巻三号をお送りいたします。東洋史、西洋史、現代史からの論説が一本ずつに、地理からの研究ノートが一本、さらに紹介が二本と多彩な構成となりました。いずれの論考も力のこもった、読み応えのある内容となっております。本誌の到着が、皆さまにとって心躍るものとなれば幸いです。(塩野崎信也)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenkuyukai.jp/index.html>

二〇一六年五月二五日印刷
 二〇一六年五月三一日発行
 定価 一、二〇〇円
 史林 第九九巻第三号(通算第五一七号)

京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学部研科内

電話 (〇七五) 七五三一・二七八七
 FAX

発行人 史学研究会

振替京部 〇二七〇二一五五番
 理事長 永井和

印刷所 中村印刷株式会社
 京都市南区上高羽藤田二九

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCIX No. 3

May 2016

CONTENTS

Articles :

IWAMOTO Marie, The Revision of Rituals in the Inner Palaces
at the End of Jiajing 6 (1527): The Despot and the Legitimacy
of Political Decisions in Ming China (1)

NAKAYAMA Shun, « Conservation des monuments historiques et urbanisme
dans une ville provinciale pendant la première moitié du XIX^e siècle :
rapports entre le pouvoir central et les acteurs locaux au sujet
de la mémoire historique » (32)

FUJIOKA Masaki, The Intellectual “Stagnation” of Soviet Studies
in the United States during the Early Cold-War Era:
A Study on the Refugee Interview Project
of the Russian Research Center at Harvard University (63)

Notes :

KINDA Akihiro, On the Locations of Two Estates of Tōdaiji Temple
in Niikawa County of Etchū Province in the Eighth Century (101)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 1,200円

ISSN 0386-9369